

## アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 28 年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	アジア・イスラーム型平和共生システムをめぐる国際会議開催に伴う教員招聘
<b>代表者名</b>	小杉泰（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）
<b>事業概要 (600 字程度)</b>	<p>本事業は、アジア・イスラーム型平和共生システムをめぐる問題群に関する研究国際会議を開催するものである。会議は、このテーマにおいて代表者の所属する大学院アジア・アフリカ地域研究研究科（以下、ASAFAS）が長らく学術交流を行ってきたマレーシア国民大学イスラーム文明研究所（以下、IIH）との共催によって開催する。</p> <p>ASAFAS は、今年度より、アジア世界を主に対象として研究教育を実施する平和共生・生存基盤論講座を設置し、本事業をそのキックオフ集会の 1 つと位置づける。一方、本事業によって教員を招聘する IIH は、イスラーム文明学に関する域内随一の研究拠点である。両機関の共催による国際会議の開催によって、非ヨーロッパ型平和共生システムの可能性を議論し、人類が直面する諸課題に対するアジア独自の解決策を打ち出すことをめざす。これは、アジア研究教育ユニットがミッションとして掲げる「相互理解と問題解決のための現代アジア研究の国際共通基盤構築（ミッション 3）」に資するものである。</p> <p>また、今回の国際会議では、両大学に所属する大学院生も発表を行う。これは、海外の第一線の研究者と研究交流を行う機会を与えるとともに、自らの研究成果の国際発信を行うための訓練の場を提供することを目的としたものである。この取り組みは、「国際連携大学院プログラムによるグローバル人材育成（ミッション 2）」の一端を担うものである。</p>
<b>成果の概要 (800 字程度)</b>	<p>本事業による国際会議は、2016 年 10 月 24 日から 25 日まで 2 日間にわたって International Symposium on Islam, Civilization, and Science の下に開催された。会議には、本事業経費によって招聘した 3 名の教員 (Mohd Yusof Hj Othman 教授、Jawiah Dakir 教授、Adawiyah Ismail 教授) に加えて、26 名の研究者がマレーシア国民大学より来日し、研究報告を行った。また、京都大学からは、10 名の教員、ポスドク、大学院生が研究報告を行った。</p> <p>会議では、紛争解決や宗派対立の克服といったアジア各地で見られる政治課題を対象として、どのようなアジア・イスラーム型平和共生システムを構築できるかについて理論・実証の両面から活発な議論が行われた。また、それに関連させて、西洋文明とは異なる独自性を持つイスラーム文明が、21 世紀の持続可能な地球社会の将来ビジョンにどのように貢献しうるかというより大きな視点からの議論も活発に行われ、イスラーム文明が提起している特有の価値（公平性、道徳性など）は、欧米主導のグローバリズムを超越する普遍的な価値を持ちうるのではないかという点が多く参加者から提起された。</p> <p>本会議に合わせて、ASAFAS と IIH との学術交流を長期的な展望の下で継続的に実施していくための検討会議も期間中に開催された。両者の学術交流の成果としては、すでに、マレーシア前首相 Abdullah bin Haji Ahmad Badawi 氏のイニシアティブによる京都大学ハダリー・イスラーム文明研究センターが 2015 年 4 月 1 日に設立されている。検討会議では、このセンターを活用しながら、さらなる交流プログラムの充実、大学間学術交流協定 (MOU) の締結などが前向きに検討された。</p> <p>本事業の教育効果として、会議に参加した本学の大学院生が来日した教員・研究者と非常に積極的に研究交流を行っている光景が至る所で見られたのは特筆に値する。次世代の学術研究を担う大学院生に対して、今後もこのような機会を継続的に提供していくことの重要さとその効果の大きさを痛感させられた会議でもあった。</p>